

今後の高等教育の将来像の提示に向けた論点整理【概要】

平成29年12月28日
中央教育審議会大学分科会将来構想部会

社会全体の構造の変化

- ・学術研究や教育の発展 → 学際的・学融合的な研究、文理融合的な教育
- ・第4次産業革命 Society5.0 → 「AI × ○○」分野を超えた専門知・技能の組み合わせ
- ・人生100年時代 → 多様な年齢層の学生
- ・グローバル化 → 多様な国籍の教員、学生
- ・地方創生 → 地方の産業の生産性向上、高付加価値化

高等教育における人材育成

■18歳で入学する伝統的な学生

- ・急速な社会の変化の中で陳腐化しない普遍的なスキル、リテラシー
 - 一般教育・共通教育と専門教育を通じた汎用的能力の育成
 - 強みとなる専門分野と幅広い視野を兼ね備えた人材の育成
- ・第4次産業革命時代の新たなリテラシー
 - 数理・データサイエンス

■社会人

- ・学術的な背景を持つ教員による最先端の実践の理論化
- ・実務経験のある教員による最先端の実践例の提供

※Society5.0に向けた人材育成の在り方については引き続き議論

高等教育機関の教育研究体制

- ・将来の人材需要は次々と変わり得る
- ・上記の社会の変化に共通するキーワードは「多様性」

- 予測困難な中で、変化に迅速かつ柔軟に対応できる教育研究システムの構築へ
- 多様な価値観が集まるキャンパスから新たな価値が生まれる
- 自前主義から脱却し、学部を超え、大学を超えて多様な人的資源を活用
- それを少子高齢化の中で実現

■多様な教育研究分野

迅速かつ柔軟なプログラム編成
多様性 × 少子化 = 連携・統合

- ・学位プログラム (学部等の枠を超えたプログラムの構築)
 - ※学生の視点から履修の幅を広げるような取組も重要
- ・大学間の連携・統合 ※円滑な撤退の手続き

■多様な教員

多様性 = 学外資源の活用 (脱自前主義)

- ・学位プログラム (再掲)
- ・実務家、若手・女性

■多様な学生

多様性 × 高齢化 → 多様な年齢層の学びの場に

- ・社会人 → リカレント教育
- ・外国人 → 留学生

■多様性を受け止めるガバナンス

多様性 = 学外資源の活用

- ・他大学、産業界、地方公共団体との恒常的な連携体制の構築
- ・学外理事等

18歳人口の減少を踏まえた大学の規模や地域配置

※短大、高専、専門学校、大学院について、特有の検討課題、高等教育機関全体の相互の接続関係の在り方、学位・称号の国際的通用性の確保等について引き続き検討

■大学の規模

- ・本格的な人口減少 18歳人口 119万人(2016)→103万人(2030)→88万人(2040)
- ・2033年の進学者数の推計は、47都道府県平均で、現在の定員の約85%
- ・リカレント教育による多様な年齢層の学生の増加に留意

■地域で描く将来像

- ・全都道府県の大学の配置状況に関する客観的なデータの作成 (将来の入学者減の推計を含む。)
- ・地域の国公立大学が、地方自治体、産業界を巻き込んで、将来像の議論や連携、交流の企画を行う恒常的な体制を構築

教育の質の保証と情報公開

- ・教育課程、指導方法の改善 → シラバス、GPA、実務家教員の活用、教員の教育能力
- ・学修成果の可視化と情報公開 → 学修時間、GPA、退学率、就職率、資格取得、アセスメントテスト、ルーブリック、ポートフォリオ、学生の成長実感、満足度調査、卒業生への評価の把握 他
- ・認証評価 → 内部質保証の重視と負担軽減

※「大学院教育の在り方や大学等における研究の関係」、「高等教育機関の機能別分化」、「高等教育を支える支援方策の在り方」等については、今後検討